平和を守れ

想え！人類滅亡の原子戦争

終戦以来国民待望の講和条約について、去る七日中国米英両国より草案を発表した、国内外において重大なる関心を持たれていた問題であるが故に、われ等日本国民として慎重に考慮検討し、われ等の態度を示すべき秋が来た。

今や米国は日米経済協力体制を確立し、わが国をアジアの工業国たらしめ、日本産業力を動員して軍需中心の機構に組織し、国際軍備拡張の下請的なものに再編することは完全察知されるところであるこの機に当り資本家は時局景気を利用し、資本の蓄積に注奔し反動吉田内閣は国際資本家化に便乗して労働者の弾圧と組合破壊化を企図し、労働基準法を中心とする労働関係法の改悪を国会に提出せんと着々準備を行つている。

反動吉田は日米経済協力こそが日本の完全独立と講和後の日本経済の再建である如く印象づけようとして種々国民の前に無能にして無責任な諸政策を発表している。しかも国民大衆は米価の値上り電気料金の大巾値上げ諸物価の高騰等により今やドン底生活にたきこまれようとしている。

官庁の汚職不正事件等は毎日のようにうつ巻き、その反面生きる道を失つた親子心中が新聞紙面を賑わせ、終戦六年がめぐり来たというのに傷兵は惨めな姿で軍や街頭に溢れみを乞うている。

一九五一年八月十七日

三池炭鉱労働組合

紅葉と秋と子供

コント

佳作　三川　川崎和人

「二郎（子供）にお金やるのも家計を調べた上でやりなさいよ」と妻君プリプリ　夫「まあそう怒るなよ」「怒らないで言られますか」「二郎にあげる金は　オープン・ショップ制を採ろうか（フフ）」と組合員らしく組合用語から引張り出して言うと「何です　そのオープン・ショップとかは」「妻君いら立しく「ふざけずに説言つた。それはね　僕が二郎に金をあげる時　お前に許しを得ておけばいいと言う事だ」「妻君益々プリプリ「それがいけないと言うですよ」「ではユニオン・ショップ制はどうです？」「日本語でいえなさいよ」「僕が二郎にあげる金はお前に許しなくあげてもよいがあげてしまつてお前に報告せねばならないという事だ」「やつてしまつてからもう遅いじゃありませんか」「ウム　そこに難しく輝いて言る　妻君しんみりと「もう秋ね」「うん労働闘争の秋だよ」と妙に緊張した声で言つた。

佳作　三川　山本　主幸

「敗子姉ちゃんいる」と朝早くから隣の小学生の娘が勝ひのよいはずんだ声と同時に座敷へ上り込んで、敗子の姿を見て間に合つてよかつたという顔つきでいる。片手に季節の草花が束ねられてある。花は唯もが好きである。敗子の場合も一しほ親愛の度合が強い。

「まあきれい」と思はず花の匂ひをかいで見る、敗子は組合に勤めている事務員である。「此の花ね組合に持つて行つてさしてもらひたいの、きのう兄さんと組合へ行つてみたら、花瓶の花が萎んでたでせう、兄さんに話してみたら、い、所へ気が附いたとほめられたの……」

出入りのはげしい組合の中に、まして一日の組合義務に没頭し、その疲れを癒すものとして花は大きな効力を持つている。花は一種のオアシスでもある。萎んだ花を見ては誰しも好い気持はしない。小供心にも此んな殺伐気持がある。労働闘争の秋だよ」と妙に緊張した声で言つた。

とは考へらかつただけに、感受性の強い敗子は、女性特有の感傷に溺れている。組合の花瓶に活けられた花は、何か神々しいものに感じられた。

短歌

題　汗　選者　岩本宗二郎

天　宮浦　前田　義則

発酵寸前の汗ぬぐつつ読む弁当に網の汗のこぼれ落ちたり

（評）生活感情がにじんでいる。炭鉱に働く者の生きた姿がこの歌に躍ひくく位置つけて打鎌する。

地　製作所　長谷川喜一

秋の日の照りつける中に汗流して家族を養はんとする作者の姿に感じる。一、二句の辺りもよく出ている。

佳作　宮浦　永野　泰吉

ひたいより汗伝ひくる鶴はしの柄を持ち替えて石炭をひた掘る

万田　木村　守

ひたいより汗は流るゝ荒縄に絡みて持たるゝ南瓜が四個

港務所　柳川　昭陽

鑑度が変替える子等の汗ふきてぬりたる如く天瓜粉打つ

港務所　下田　菊史

闘門に倒れつゝ通過せし船の綱を放して君は汗ふく

四山　野田　正人

マッサージをわれは肋みて汗泌みしシャツを洗ふ蒼き夕暮

俳句

題　新涼　選者　泉　刺花

天　港務　松井吐季生

潜水箱吹く新涼の甲板に

（評）応募中最秀作に於て清新さを感じた。一仕事終つて潜水箱を覗げば新涼の大気が疲れをいやす如くあふれている。季感にとらはれず新涼を生かしている句である。

地　本所　西山　博水

手にとどく初島の景秋原し

（評）実感の句はどこか迫力を持つているものである。

人　宮浦　井手口湖舟

秋涼し夕の試歩も試されし

（評）夕の試歩も確快になつてゆく病人の心境に満ちた気持が現はれている。時恰も新涼の節であることも。

佳作　万田　宮崎　天馬

新涼や呉服屋深く喫う

四山　那須　節雄

新涼の起居静かにみごもりぬ

宮浦　川上紅陽子

新涼や子をしたがえて草刈りに

本竹　三根　忠光

此ならとえつた西瓜にやしがりつく

入選一席　天翔

三川　河原畑隆男

俺達は盗賊。

俺達の盗みは、

やせ干枯らびた　この胸骨をみて

哀れ！

打ちくだかれた　この指つめを見て

哀れ！

働労の辛さが、骨にすくう汗の滴りにも及ばなかつた報奨を

しつては哀れるであろう。

—もはや　泣くまい。

—もはや　だまされまい。

諸々たる虚偽よの塵のなかに

自らの営みをあきらめてはならない

怒りの拳を堅いスクラムに替え

俺達は闘争の渦とする。

同志よ、天馬となつて飛躍するのだ。

奴れい的屈辱と貧困の汚穢に満ちあふれたこの位置から

反動の鉄鎖を絶つて　舞ひあがるのだ。

（思いみよ、みはるかすれいら。〜〜〜